

JCA認定 キャンドルインストラクター

素敵なキャンドルの魅力と、それを自分の手で作り出す楽しさを伝えたい——。学び始めたときに抱いた、そんな「夢」を叶えてくれた資格です

雑誌で見つけた
素敵なキャンドルを
作りたくてスクールへ

齋藤さんがキャンドル作りを学ぼうと決めたのは、自然の草花をあしらった「ボタニカルキャンドル」を雑誌で見たのがきっかけだった。「なぜかこれを買おう」ではなく、「作りたい」と思ったんです。すぐにインターネットで調べて、JCA認定校に通い始めました



アトリエのような雰囲気のCandle Studio L'OASIS。子連れでのレッスンも大歓迎というスタイルは、ママでもある齋藤さんならではの。

その3カ月前まで、2児のママをしながらキャビンアテンダントとして働いていたという齋藤さん。無理なく育児と両立できる仕事を模索していたこともあり、学び始めると同時に「いつか教室を開こう」と決めたという。

「色も香りもデザインも自由に組み合わせられるキャンドルは、作るのが楽しいだけでなく、作品をプレゼントにしてもいい。若い女性はもちろん、ママたちにも受け入れられると思ったんです」

**自宅で教室を開いて
手ごたえを確かめたあと
満を持して認定校を開校**

資格を取得すると、齋藤さんはまず自宅で教室を開いた。ママ友をはじめクチコミで生徒が集まり、楽しくレッスンをしていたのだが……。

「3カ月もすると、『もっと挑戦してみたい』と思うようになりました。生徒さん同士が一緒に作品作りをするような、そんな場所がほしくなりました」

そこで、認定校申請を提出。協会の審査を受け、2014年3月に新宿でJCA認定校Candle Studio L'OASISを開校した。

「コンセプトの立案から、ホームページ作成や集客などのPR戦略まで、協会のサポートを受けながらオープンを迎えました。開校後も研修会に参加できたりアドバイスが受けられ

齋藤麻衣子さん (33歳) | 13年8月に資格取得。2014年3月にJCA認定校Candle Studio L'OASISを新宿にオープンさせた。http://candle-loasis.com



「3カ月もすると、『もっと挑戦してみたい』と思うようになりました。生徒さん同士が一緒に作品作りをするような、そんな場所がほしくなりました」

そこで、認定校申請を提出。協会の審査を受け、2014年3月に新宿でJCA認定校Candle Studio L'OASISを開校した。

「コンセプトの立案から、ホームページ作成や集客などのPR戦略まで、協会のサポートを受けながらオープンを迎えました。開校後も研修会に参加できたりアドバイスが受けられ

たりと、協会に助けられています」

今は子どもたちの生活リズムに合わせて、10時から21時の間でレッスンをやっている。子どもたち、そして生徒さんの成長に合わせて、働

き方は変えていく予定だという。

「教室名の『ロアジス』とは、フランス語で憩いの場という意味。生徒さんたちが出会い、コラボレートしていく場に育てていきます」

**わが子が成長するとともに
私自身も成長していこう。
そう思えるようになったのは
キャンドルの資格のおかげ。**

ここがおススメ 編集長の注目ポイント

震災後、インテリアや癒しアイテムとして、キャンドルは注目を集めています。齋藤さんのように「自分で作ってみたい」という人も増えており、実はインターネットで「キャンドル」が検索される数は、年々増加

しています。キャンドルの普及にも力を入れている協会では、そういったデータを有効活用し、有資格者のキャンドル教室のコンセプト立案や集客術などをアドバイス。協会の手厚いサポートが受けられるのは大きな魅力です。

どう学ぶ?

JCA認定キャンドルアーティスト資格認定後、インストラクターコースを受講。最後の実技試験を通してキャンドルスクールを運営する上で必要不可欠な知識、ノウハウ、レシピ制作スキルまでのすべての習得を認められると合格となる。

どう稼ぐ?

齋藤さんのようにJCA認定校として教室を開くか、推奨校を開けるほか、JCA直営校の講師として働くこともできる。またイベントやカルチャースクールなどでもインストラクターとして活躍でき、作品販売でも収入を得ることができる。

どんな資格

社団法人日本キャンドル協会が認定するインストラクター資格。合格後はJCA認定校または推奨校としてキャンドル教室を開くことができるほか、協会の提携ハンドメイドマーケットサイトの優遇サービスも受けられる。